草地等の生産性向上について

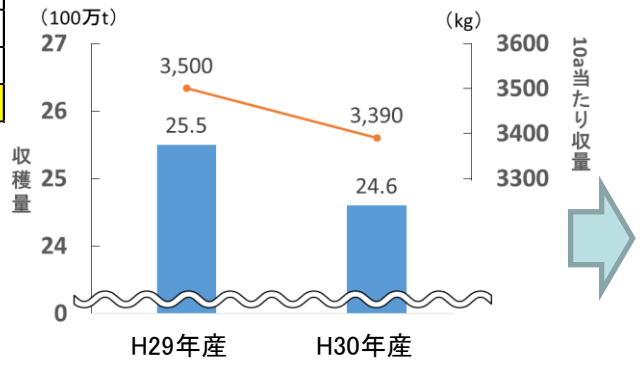
○ 近年、規模拡大等により草地管理にかける時間が減少し、草地改良率の低下や難防除雑草の繁茂が課題。
○ また、台風や豪雨の増加、干ばつなどの気象の不安定化により、草地改良、飼料生産に悪影響が発生。
○ このため、牧草の収量や品質の向上が図られるよう、国産飼料生産・利用拡大緊急対策事業において草地の診断や生産性の高い草地等への改良を行う取組を支援。
○ 改良後の草地については、適正な管理により生産性の維持・向上を図ることが重要。

○北海道における草地改良の実施状況

区　分		H7	H12	H17	H22	H27	R2	R3	R4	R5	R6
牧草作付け面積（万ha）	A	58.4	57.6	56.8	55.4	54.1	53.0	53.0	52.5	52.2	51.6
草地更新・整備面積（万ha）	B	2.8	2.6	2.3	1.6	1.9	1.6	1.6	1.7	1.5	1.4
更新・整備率	B/A	4.8	4.6	4.1	2.8	3.5	3.1	3.0	3.2	2.8	2.7

（北海道農政部調べ）

○ 気象の不安定化による牧草の収穫量と単収の変化



資料：農林水産省「作物統計」

平成30年産は
・生育期の天候不順
・収穫期の台風襲来及び長雨
の影響により収穫量が減少。

難防除雑草※の駆除

○難防除雑草は繁殖力が旺盛であり、牧草の収量や品質の低下を招くため、地域一体となった計画的な駆除対策が必要。

※難防除雑草とは、根茎等での繁殖が旺盛で、除草剤がききにくく、単一の手法での防除が困難な雑草。

＜特に防除の難しい難防除雑草＞


メドウフォックステイル


ハルガヤ

（主な事業）

【R7年度補正】 国産飼料生産・利用拡大緊急対策事業
（飼料作物の生産性向上対策のうち草地改良技術等普及対策）

裸地化の進行状況や雑草の侵入状況等を評価する草地診断の実施、高品質かつ高収量な草地や飼料畑に改良する難防除雑草駆除技術、高位生産草地等転換技術の現地実証を支援。

（補助率：定額、1／2以内）

草地改良技術の現地実証の取組例（収穫適期の拡大）

○圃場の一部を異なる草種に転換することにより、収穫適期が拡大され、天候不順による収量減少の影響を緩和。
（例：チモシー主体圃場60haのうち、30haをオーチャードグラス主体圃場に転換）

転換後の収穫期（イメージ）

6月	7月	8月	9月
OG 1番草	TY 1番草	OG 2番草	TY 2番草	OG 3番草


← TY: チモシー

OG:オーチャードグラス→
